

JENESYS2015 招へいプログラム

対象国:インドネシア(社会人)

テーマ: (文化) 科学技術交流、歴史文化交流 の記録

1. プログラム概要

「対日理解促進交流プログラム」の一環として、インドネシアより日本の社会活動に関心を有する政治学国際関係学等研究者 8 名およびジャーナリスト/若手メディア 8 名が来日し、日本の政治、社会、文化、歴史及び社会活動に関する理解促進や、日本の魅力等の積極的な発信を目指し、2 月 10 日から 2 月 16 日までの 6 泊 7 日の日程でプログラムを実施しました。

2. 参加国・人数

インドネシア 16 名

3. 訪問地

東京都、千葉県

4. 日程

- 2 月 10 日(水) 成田国際空港より入国、来日時オリエンテーション
【最先端技術】東京スカイツリー
- 2 月 11 日(木) 【日本理解講義】日本の政治・メディア概要、日インドネシアの特徴と比較
千葉県へ移動(バス)
【メディア】ローカルメディア みなラジ
- 2 月 12 日(金) 【表敬訪問・講義・視察】鴨川市役所
【地域産業】亀田総合病院(政治学国際関係学等研究者グループ)
【地域産業】鴨川シーワールド(ジャーナリスト/若手メディアグループ)
【地域交流】ホームステイ対面式、ホームステイ
- 2 月 13 日(土) 【自然・環境】大山千枚田
【日本文化体験】太巻き寿司作り体験、わら細工作り体験
- 2 月 14 日(日) 【地域交流】ホームステイ歓送会
【地域産業】地域活性化とローカルメディア KamoZine
【地場産業・自然】みんなみの里、いちご狩り
【ワークショップ】
- 2 月 15 日(月) 千葉県から東京へ移動(バス)
【最先端技術】海ほたる
【成果報告会】(訪日成果・帰国後活動計画発表)
- 2 月 16 日(火) 成田国際空港より出国

5. JENESYS2015 インドネシア(文化) プログラム記録写真



2/10 【最先端技術】東京スカイツリー



2/11 【基調講演】(東京都)



2/11 【メディア】みなラジ 概要説明(鴨川市)



2/12 【地方自治体表敬訪問】鴨川市(鴨川市)



2/12 【地域産業】鴨川シーワールド(鴨川市)



2/12 【地域産業】亀田総合病院(鴨川市)



2/12 ホームステイ(鴨川市)



2/12 ホームステイ(鴨川市)



2/12 ホームステイ(鴨川市)



2/13 【自然・日本文化体験】大山千枚田(鴨川市)



2/14 【地域産業】地域活性化とローカルメディア KamoZine(鴨川市)



2/14 【地場産業】みんなみの里(鴨川市)



6. 参加者の感想

◆インドネシア（政治学国際関係学等研究者グループ）

私は日本についてより詳しく理解することが出来ました。日本は伝統文化を保存しつつも、現代文化を同時に吸収する能力があります。このプログラムを通じて知ることができた日本国内の問題は、ニュースの配信に関するメディアの役割ですが、まだ改善される余地があります。それは不足だということではなく、人々がより積極的に参加できるような改善をする余地がまだあるということです。東京でメディア関係者と一緒に議論をしたことでイメージを膨らませることができ、有益でした。

◆インドネシア（政治学国際関係学等研究者グループ）

最も印象に残ったことは、国家政策を推進していく上で、ワークシステムが日本伝統文化とどのように共生し構築されているかという点です。確かに、人口統計において日本は少子高齢化という深刻な問題に直面していますが、今回の訪問で高い国民意識を持つ日本人は人口問題に対しても有効な解決策を探る能力を有しているということがわかりました。

◆インドネシア（政治学国際関係学等研究者グループ）

今回の日本滞在中で印象に残ったことは3つあります。

- ・特に台風や地震多発地域に対しては、自然条件に適応した日本の技術の進歩。
- ・地域社会活性化及び、地域経済の発展における活動において、地域社会のリーダーがどのような志をもって主導しているかということ。
- ・[以前経験したバブル経済後の対応や](#)、と人口の高齢化に直面している日本政府の政策は、インドネシア政府にとって人口過密に直面した際の予防策を講じるお手本となる。

◆インドネシア（ジャーナリスト/若手メディアグループ）

私は日本文化の影響を多く受けた時代で育ちました。特にテレビ番組(1996～2000年あたり)では、日本のアニメや、音楽、いわゆるJ-ロックは私の青春の一ページを飾っていました。しかし、今回の滞在中を通じて、テレビに映ったものは本当の日本ではないことがわかりました。ホームステイプログラムでは、日本社会における先端技術が、代々伝わる文化と共存し生活のバランスがとれていることを学びました。

◆インドネシア（ジャーナリスト/若手メディアグループ）

今回のプログラムで訪問した東京都にしても鴨川市にしても、建物のほかは木、草、花が育っており、石ころだらけのやせた土地はほとんど見られませんでした。日本は環境保護を非常に重視している国であることがよくわかりました。それは、日本の国土面積は非常に小さく、自然災害が頻繁に起こるため、災害に強い国土・地域づくりの必要性が高まって国民の災害意識が高いからだと感じました。

◆インドネシア（ジャーナリスト/若手メディアグループ）

日本の自然環境は非常に美しいと思います。特に鴨川市のように農家が多く、いちご狩り、田植えや稲刈りなど、地域ぐるみの観光化への取り組みを見習うべきだと感じました。講義では、観光や町づくりを主体的に振興するために、地域ネットワークを構築し、メディアの協力、周辺施設との広域連携や官民連携を積極的に取り組んでいくことを知り、非常に勉強になりました。

7. 参加者の帰国後の発信内容

<p>来日中に発信した新聞記事</p>	<p>FAJAR 2016年2月16日掲載</p>

インターネットニュース(2016年2月18日)

インターネットニュース(2016年2月19日)